

コード	504010102
記入日	H21.6.1

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川義男
担当者	湯川直基

作成年度	平成 21 年度
------	----------

事務事業事後評価表

評価対象事業名称	国立劇場出演事業補助金
----------	-------------

事業種類	単年度事業
事業期間	平成 20 年度 ~ 平成 20 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	504	施策名称	伝統・文化の保存・継承と創造	項コード	5
基本事業コード	50401	基本事業名称	伝統・文化の保護・継承	目コード	1
事務事業コード	5040101	事務事業名称	伝統・文化保護・継承事業	細目コード	
関連計画			法令・条例規則等		

計画 (PLAN) ※単年度事業及び単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。							
対象: 誰、何を対象にしているのか			対象指標: 対象の大きさを表す指標				
(対象1) 住民			(対象指標1) 24,299人 (H20.4.1)				
(対象2)			(対象指標2)				
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入			活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
(全体)		(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率) (達成率積算根拠) (目標達成年度)		
***	文化の殿堂である国立劇場小劇場で 地域に伝わる民俗芸能の紹介及び物産展、観光情報の発信。 出演団体 8団体 参加人数 141名 来場者数 1180人	①	***	***	***	補助金交付実績数 ÷ 計画した事業数 = 1件 ÷ 1件	***
			補助金交付実績数	1件	100%		平成20年度
		(達成率分析)	実行委員会より申請があり、内容を審査し交付した。				
		②				出演した団体数8団体 ÷ 計画した出演 団体数8団体	平成20年度
			*****	8	100%		平成20年度
			(達成率分析)				
目的: 何をしたいのか			成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
先人の営みの中から生まれた町内の郷土芸能を文化の殿堂国立劇場で全国へ向けて発信することで町の魅力を多くの人々に発信し交流人口の拡大を図る。		①	(指標名称)	(指標数値)	(達成率) (達成率積算根拠) (目標達成年度)		
			***	***	***	入場者数1180人 ÷ 入場目標数944人	***
		入場者数	1180人	125%		平成20年度	
		(達成率分析)	目標人数より、多数の入場者があったことは、東京で町の魅力を多くの人々に向けて発信することができた。				
		②					
(達成率分析)							

実施 (DO) ※単年度事業及び単年度繰返事業については、評価実績年度及び全体計画欄のみ記載する。					
	単位	全体計画	H 20 ~ H 20	平成19年度以前	平成20年度
		計画	実績	実績	計画 実績
活動指標	① 団体	1	1		1 1
	② 団体	8	8		8 8
成果指標	① 人	944	1,180		944 1,180
	②				
総事業費 C (A+B)		千円	1,189	1,189	1,189 1,189
直接事業費 A		千円	489	489	489 489
人件費 B		千円	700	700	700 700
内訳	従事職員数	人	0.1	0.1	0.1 0.1
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000 7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円			
	県補助金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
一般財源		千円	1,189	1,189	1,189 1,189

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありましたか。	● はい ● いいえ	理由	地域の伝統芸能の振興と町の魅力発信事業として必要がある
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありましたか。	● はい ● いいえ	理由	国立劇場小劇場主催の「地域芸能の日」は年1回しか開催されず全国で1ヶ所しか選出されない所以需要である
	事業の対象・目的は適切でしたか。	● はい ● いいえ	理由	地元郷土芸能団体、個人が参加できたので適切である。
有効性	事業の目的は達成されましたか。	● はい ● いいえ	理由	入場者数は目標を超え、多くの人々へ魅力を発信できた。
	成果を向上させる余地はありませんでしたか。	● はい ● いいえ	理由	行政内部での連携で向上する余地がある
	事業を行わない場合の影響はありませんでしたか。	● はい ● いいえ	理由	郷土芸能の伝承・保存が難しくなり町の衰退に繋がる
	類似事業との整理統合はできませんでしたか。	● はい ● いいえ	理由	類似事業はない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんでしたか。	● はい ● いいえ	理由	活動を行うための必要な部分を計上しているのでこれ以上削減はできない。
	人件費を削減することはできませんでしたか。	● はい ● いいえ	理由	必要最小限の人員で取り組んだ。
	受益者負担は適正でしたか。	● はい ● いいえ	理由	大人10,000円、子供5,000円の参加費は適正だったと考えられる。

改善(ACTION)

1次評価	○今後の関連事業に対する改善点
	行政内部での推進体制を強化して事業の効率化を図る
	○目的が達成されていない場合の課題と改善策
2次評価	なし
	国立劇場への出場は初のことであったが、本町の情報発信としては効果があったと認められる。この成果が町内の伝統文化継承に生かされること。また本町の物産品等の販売向上に生かされるよう、次の事業に結び付けていくこと。

住民等の意見	
町の対応	

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。